



理工学研究科機能材料化学コースの大学院生が
「第 63 回化学関連支部合同九州大会」にて優秀ポスター賞を受賞

【概要】

理工学研究科機能材料化学コース博士前期課程 2 年の櫻井 鴻志郎さんが、2026 年 6 月 27 日（土）に開催された第 63 回化学関連支部合同九州大会において優秀ポスター賞を受賞しました。

【本文】

理工学研究科機能材料化学コース博士前期課程 2 年の櫻井 鴻志郎さんが、2026 年 6 月 27 日（土）に北九州国際会議場にて開催された第 63 回 化学関連支部合同九州大会において優秀ポスター賞を受賞しました。

本会は、化学関連 8 学会（高分子学会、繊維学会、日本農芸化学会、化学工学会、日本化学会、有機合成化学協会、電気化学会、日本分析化学会）の九州支部等の共催により毎年度開催される、化学関連の学会としては最大規模の学会です。九州各県ならびに山口県の大学に所属する多数の学部生・大学院生が研究成果を発信する場であり、各学会支部が厳格な審査の下で、優れた研究成果と発表を兼ね備えたポスター発表を行った学生を表彰しています。

化学工学のセッションでは、化学を工学の面から考え、化学を用いた世の中への貢献や、化学材料の内部で起こる現象を定量的に解析する研究など、113 件のポスター発表が行われ、10 件のポスター賞が選定されました。

櫻井さんの発表タイトルは「微細藻類由来タンパク質を効率的に回収する多孔質吸着剤の調製」であり、微細藻類が持つ有用タンパク質『フィコビリタンパク質』を高速かつ高容量で吸着・回収するための多孔質吸着剤の開発に関する研究です。エマルション重合による吸着剤の調製過程における拡散および対流といった物質移動現象や吸着特性を偏微分方程式により定量的に解析し、その成果を発表した結果、優秀な発表として高く評価され、今回の受賞に至りました。今後のさらなる活躍が期待されます。

また、佐賀大学では出村 幹英 特任准教授を中心として、佐賀市と連携しながら微細藻類に関する様々な研究を推進しています。佐賀市では、二酸化炭素の有効利用を目的とした微細藻類の研究がすでに進められており、日本における微細藻類研究の一大拠点として発展しつつあります。本研究は、微細藻類が産生する有用物質を効率的に分離・回収するための材料開発に関するものであり、こうした研究の発展にも寄与することが期待されます。

さらに、微細藻類に関する研究は世界各国で活発に進められており、本学はスペイン王国のアルメリア大学と連携して研究を推進しています。本研究成果についても、国際的な研究活動を通じて広く世界へ発信していく予定です。



受賞した櫻井 鴻志郎さん